

# vol.21

2013年7月

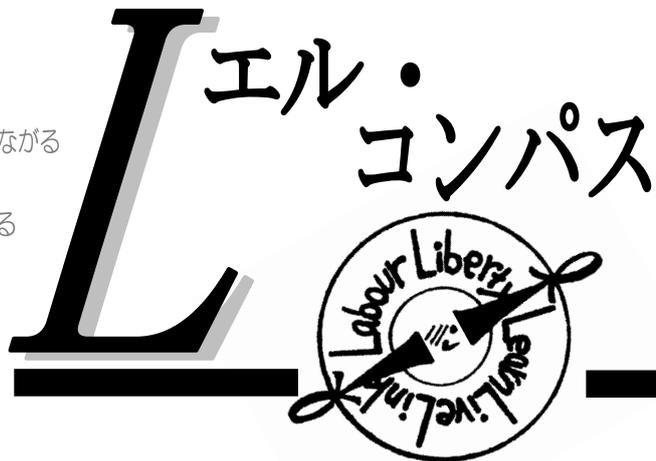
Link つながる

Live 生きる

Learn 学ぶ

Labour 労働

Liberty 自由



宝塚市立男女共同参画センター・エルは、すべての人が個人として、性にとらわれず、自分らしくいきいきと充実した生活を送ることができる「男女共同参画社会」の実現を目指すための施策推進の拠点施設です。センターの愛称“エル”は上記の5つのLの頭文字をとったもので、市民からの公募で決定しました。

宝塚市立男女共同参画センター



巻頭エッセイ「アウン・サン・スー・チーさんのメッセージ」・・・・・・・・・・1  
 寄稿「コミュニティで支えよう～DV被害女性と子どもの回復に向けて」・・・・・・2  
 講座案内（7月～11月）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4  
 情報図書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7  
 女性のための相談室のご案内など・・・・・・・・・・・・・・・・・・8

## アウン・サン・スー・チーさんのメッセージ

one of my respectable women（我が尊敬する女性の一人）、ミャンマー最大野党の党首でノーベル平和賞受賞者のアウン・サン・スー・チーさんが4月、27年ぶりに来日した。彼女の生の声を聴きたくて日々のメディアに注目したが、記者や講演での質疑応答への切り返しがるどく、スー・チーさんはなかなかの言葉の格闘家だと感じた。ここに一部再現する。

京都大学で約500人の学生を前に「ビルマ（ミャンマー）の最近の社会・政治的变化とそこへの女性の参加」をテーマに講演した。ビルマでは半世紀に及ぶ軍事政権支配で独裁的な考え方が形成されたが、民主国家になるにはそうした思考法を変える必要がある。それを早くできるのは女性だ。女性は男性ほど軍事政権の影響を受けていない。女性の参加が必要だと話した。講演後の質疑時間で、15年に亘った自宅軟禁について学生に「なぜそんなに忍耐力があるのか」と問われると、「私は女性だから忍耐と言われるが、男性だったらタフだと言われるだろう。私は女性的ではない。タフでもある」と切り返した。

NHKテレビ「クローズアップ現代」では、国谷裕

子インタビュアーの「『建国の父』と国民に尊敬された父親の影響を受けて今日のあなたがあるのか」という質問に、「父は2歳のときに亡くなった。父の信念を伝えてくれた母親からより大きな影響を受けた」と、また「今68歳のあなたにとって次の大統領選まで2年しかないが、2年をどう闘うつもりか」という問いに「政治家にとって2日間あれば大きなことができる。2年間は決して短くない。与えられた時間を最大限に使うだけ」と切り返した。

長年続いた軍事政権の独裁から民主化に向け「国を安心して自由を感じる国にしたい」と抱負を述べ、そのために必要なのは「self-confident（自らへの自信）、失敗を怖れない勇氣、信念、希望。人に頼ってはいけない、一人ひとりが自らの責任を果たす。恐怖から自由になるには、一人ひとりが自由を求めて実践するしかない。国民に自立して欲しい、参加して欲しい、努力して欲しい」とのメッセージが、強く心に残った。

NPO 法人 女性と子どものエンパワメント関西 理事長

田上 時子

# コミュニティで支えよう

## DV被害女性と子どもの回復に向けて

**D**Vとは暴力で相手を支配することであり、恐怖による支配とも言われる。暴力は身体的暴力だけでなく、言葉の暴力や束縛、<sup>①</sup>経済的暴力や性的暴力など多様であり、相手の言動を怖いと感じたら、それはあなたが暴力を受けているということである。

私がDV（夫・恋人からの暴力）被害者支援に取り組むきっかけは1995年の阪神・淡路大震災である。当時、女性支援ネットワークをたちあげ、「女性のための電話相談」を開設した。驚いたことに相談の6割はDVだった。その後も相談は減ることがなく、2001年に同行支援（被害者が警察や福祉事務所、裁判所などに行く場合に付き添うこと）を始め、2005年には緊急一時保護のため<sup>②</sup>シェルターを開設し今日に至っている。これまでに約200組の女性や母子が利用している。



**多**くのDV被害女性が<sup>③</sup>PTSDや<sup>④</sup>鬱、対人恐怖を抱えており、回復には長い時間がかかる。子どもも同様である。妻に身体的暴力をふるう男性の6~7割が子どもへも身体的暴力をふるっている。たとえ子どもに対する身体的暴力がなくても、暴力を目撃する恐怖や極度の緊張が子どもに与える心理的ダメージは非常に大きく、2004年の改正児童虐待防止法にもDV家庭で育つことは心理的虐待とされている。児童虐待の背景にDVがある場合も少なくない。暴力は子どもの心から安心や自信、自由を奪う。その結果として多動、不安、学習困難となり、人間関係が苦手になったり、仲間に対して攻撃的な態度をとりやすくなったりする人が多い。加害者が意図的に母と子、あるいはきょうだいに対立するようにしむけることは、暴力を目撃すること以上に子どもの健全な発達を妨げるとも言われる。

**シ**ェルター内にいる小中学生は、新しい学校でいじめられないか、友だちができるか、勉強についていけるかなどとても心配している。転校した

くなかった、運動会や卒業式に出たかったと泣く子どももいる。中高生は「なんにも悪いことをしてへん俺らがこんな所にきて、俺らを殴ったり蹴ったりした親父が、なんで家にいて普通に会社に行けるんや！」と壁を蹴ったりする。シェルターを出る時には、小中学生は「お母さんがまた薬をたくさん飲んでしまったらどうしよう」「困ったら相談にきてもいい？」「また勉強教えてくれる？」などと尋ねる。「大丈夫。電話してね」と答えるが、母子の生活再建の困難さを想うと胸が痛む。

**D**V防止法は保護と防止に重点が置かれ、その後の生活再建への支援は不十分である。調査によれば、母子世帯の8割が就労しているが、<sup>④</sup>収入は全世帯平均の48%、児童のいる世帯の38%にすぎない（厚生労働省調査平成22年）。<sup>⑤</sup>「貧困率」は52.3%で母子世帯が突出している。また、無職の母親の3割が<sup>⑥</sup>鬱症状とのこと。生活困窮に加えて孤立した子育てから虐待に陥る場合も少なくない。DV被害者の場合、社会や他者への安心と信頼が損なわれており、子育て支援や就労支援といった、従来の支援にはなかなか繋がりにくい現状がある。

**最**近、当団体ではシェルターを出た人への食糧支援も兼ねて家庭訪問を行うようになった。そこでわかったのは、女性や子どもたちが、地域で非常に孤立して暮らしている実態である。DV被害から逃れた女性や母子の多くが、元のコミュニティや仕事、人間関係を捨て見知らぬ土地で暮らしているが、周囲のDVについての無理解や偏見はまだ根強く、非常に孤立しがちである。転居理由や以前どこに住んでいたかなどを話せない、話したくないなどで、近所とのつきあいがうまくいかない。元夫に似た後姿や、元夫の車に似た色の車を見るだけで動けなくなったり、新たな職場で上司が他の人を怒鳴っている声を聞くだけで、頭が真っ白になると言う。職場の同僚にいろいろ聞かれるのがつらくて仕事を辞めてしま



# 正井 礼子

NPO 法人 女性と子ども支援センター ウィメンズネット・こうべ 代表理事

女性と子どもの人権を守り、男女平等社会の実現に向けてさまざまな活動を行っている。特に「女性に対する暴力」の根絶、DV被害者の支援活動に力を注ぎ、民間シェルターの運営、「DVサポーター養成講座」の開催、大学・高校生へのDV防止出前授業、女性問題学習会、自治体職員への人権研修など、その活動は多岐に及び。

ったとか。親しくなった人にDVの経験をやっと打ち明けたら「そんなのよくあること、私なら子どものために我慢するわ」と言われ、それ以来他人との関係を絶ってしまったなど…。離婚後、数年たっても、周囲の人と全く関係を持っていないという女性は少なくない。夫が避妊しないせい（これも性暴力である）、子どもが5~6人いる場合もある。健康な母親でも子育ては大変だが、重い鬱症状のため家事もほとんどできない場合もある。現代では「発達障害」「不登校」に悩む家庭が多いようだが、母子世帯も例外ではない。行政や民間の支援、自助グループなども多くなってきているが、母子世帯にはそういった情報が届きにくく、生活保護以外の支援は受けていない母子が少なくない。また、思春期の子どもが学校生活や友人関係でつまづき、父親と同じように母親を怒鳴ったり暴力をふるうケースもある。

では、DV家庭で育った子どもが必ず暴力をふるうようになるのか？決してそうではない。生活再建に向けて支えあい、頑張っている母子もたくさんいる。最近の調査では、人が成長する過程で親の影響は4割程度であり、良き先生、友人、本などとの出会いによって育てられるとのこと。精神科医のアリス・ミラーは「たった一人でもいいから、その子どもの気持ちに寄り添ってくれる人がいたら、その子どもは健全に育つ」と述べている。DVから逃れた女性や



子どもに対して、住居と心のケアと自立できるまでの経済的支援の提供が自治体の責務とされる、そんな制度をDV法に盛り込みたい。心の回復には自助グループなどを通しての仲間づくりが効果的である。

もしあなたが被害者から相談を受けたら、「あなたにも落ち度があるのでは」と責めたりせず、「暴力は振るう側に責任がある。あなたが悪いのではない。」と伝えて欲しい。女性が家に留まるのは、住居や経済的問題の他に



周囲の無理解もある。「あなたさえ我慢すれば、子どもから父親を奪わないですむ」「離婚は恥」などの声が被害者を孤立無援にさせる。残念ながら暴力はエスカレートする傾向が強く、夫の価値観が変わり、妻に対して敬意が持てるようにならない限り、夫が変わることは期待できないだろう。

「家を出るといふ選択肢もあっていい」「力になるよ」と勇気づけて欲しい。出来れば相談窓口と一緒にいくなど、たった一人でも寄り添ってくれる人がいたらどれほど心強いことか。

心の回復に必要なのは安全な生活環境の保障と信頼できる人間関係である。彼女たちが求めているのは同情ではなく、理解である。周囲の人が母親に対して敬意と尊重を持って関わることで母子関係も安定してくる。地域の安全と安心を守り、子どもたちが健全に育つためにも、孤立しがちな女性や母子家庭をあたたく支える、そんなコミュニティであって欲しい。

- ① 経済的暴力：生活費を渡さない、借金をさせる、収入をとりあげる、用途を細かくチェックすること。
- ② シェルター：暴力から逃れ、新しい生活の準備をするために、一時的に避難する場所
- ③ PTSD：Post Traumatic Stress Disorder（心的外傷後ストレス障害）。外傷的出来事にさらされたことによる精神的な後遺症のこと。命の安全が脅かされたり、大けがをしたり、恐怖感や無力感を感じるなど、強い精神的衝撃を受けることが原因とされている。
- ④ 母子世帯の所得：平成22年国民生活基礎調査（厚生労働省）によると、1世帯当たり平均所得金額は、全世帯が549.6万円、児童のいる世帯が697.3万円、母子世帯が262.6万円である。
- ⑤ 貧困率：国民一人一人の所得を順に並べ、真ん中の人の所得額（中央値）の半額の数値を貧困線といい、それに満たない人の割合のことを相対的貧困率という。平成21年の貧困線は112万円（実質値）となっている。

講座はすべて  
参加費：無料  
保 育：10人（1歳～就学前まで）無料  
※「親子一緒にキッズルーム」は保育なし

ほっとサロン

7月～11月（木曜日） 13：30～15：30

親子一緒にキッズルーム

プレイルームで子どもを遊ばせながら、気になることを話し合ってみませんか。子育てが楽しくなるヒントが、きっと見つかります。親子一緒に楽しめる、手遊びや絵本の読み聞かせの時間もあります。

- 対 象：乳幼児とその保護者 10組
- スタッフ：子育て支援グループ「スマイル」

日	テーマ	受付開始日
7月18日	親子で楽しもう♪絵本を子どもと読みましょう！	7月1日（月）
9月19日	親子で楽しもう♪親子で手あそびしましょう	9月2日（月）
11月21日	みんなで話そう！毎日の食事のこと	11月1日（金）



こころからだのリフレッシュセミナー

受付中

7月20日～8月3日（土曜日） 10：00～12：00 全3回

幸せへのステップ♪ アサーショントレーニング

我慢して人に合わせてばかりの人も、お互いを大切にしながら、自分の意見を素直に言えたなら…。相手も自分も大切にできるコミュニケーションを学んでみませんか。人間関係に聞くヒントがきっとみつかります。

- 対 象：テーマに関心のある人 30人  
（全回参加できる方優先）
- 講 師：安田 香珠子  
（女性問題専門心理カウンセラー）

日	テーマ
7月20日	“自己表現”なぜ、苦手なの？
7月27日	好感をもたれる“頼み方・断り方”
8月3日	関係を壊さない“怒りの伝え方”

兵庫と東北 被災女性の手作り品と  
グループ活動のパネル展

つながり展

7/10（水）～19（金）

9:00～21:00

（14日は休館、15日は17:00まで）

東日本大震災から2年。東北の仮設住宅や集会所で小物を作っている女性たちがいます。そして全国にはそれを支える女性たちもいます。今回の展示は「つながり」をテーマに、小物をめぐる女性たちの活動をご紹介します。

7/13（土）エル・フェスタで展示即売します

フリーマーケットだよ！ エル・フェスタ

東日本大震災支援コーナーも  
あります！

7月13日（土）10:00～13:00（喫茶のみ14:00まで）

## 男性セミナー

7月1日（月）から受付

8月24日～9月21日（土曜日） 10:00～12:00 全3回

## 今だから、考える！ 男の生き方

変化の多い社会、思いどおりにいかない窮屈な世の中。ストレスをためずに肩の力も抜けたら…。これまでの転機を振り返りながら、自分らしく豊かに生きるためのスキルと、ココロの健康を考えます。

●対 象：テーマに関心のある男性 30人（全回参加できる人優先）

日	テーマ	講 師
8月24日	今だから、考える！「男女共同参画と男の生き方 ～「正しいパンツのたたみ方」から考える～	南野 忠晴 (大阪府立八尾北高等学校家庭科教員)
9月7日	今だから、振り返る！「男の生き方とココロの健康」	千葉 征慶 (産業カウンセラー・臨床心理士)
9月21日	今だから、語る！「男の生き方 これから」	

南野 忠晴：英語科教員として13年間勤めながら、家庭科で採用試験を再受験。大阪府立高校で初の男性家庭科教員の一人となる。

千葉 征慶：長年、IT関連企業の職場におけるメンタルヘルスを担当。DV加害男性の脱暴力を支援する「メンズサポートルーム大阪」のスタッフとして約10年関わる。

## たからづか☆大人塾（飲み物付き）

8月1日（木）から受付

9月6日（金曜日） 10:00～12:00

## 黒田裕子さんをお招きして

黒田さんは、阪神・淡路大震災当日から、宝塚市立病院の副総看護師長として被災者の看護にあたり、その後退職して、神戸市長田区でボランティア活動を開始。現在は「伊川谷工房・あじさいの家」を中心に活動されています。東日本大震災後は、「孤独死が相次いだ阪神・淡路大震災の悲劇は繰り返さない」という思いから、被災地（宮城県気仙沼）に拠点を置き、時間が取れる限り通われています。二つの震災に関わってきた人生、これからの生き方についてお聞きします。（聞き手：田上 時子）

●対 象：テーマに関心のある人 40人

## エルズルーム発サポート講座 その3

8月1日（木）から受付

9月20日（金曜日） 10:00～12:00

## 「グループ活動、一歩前進」より充実した活動、チームワーク向上のために！

従来のワークショップとは一味違う、まるでゲームをしているような感覚の講座です。夢中になってゲームのゴールを探していくうちに、思わぬ発見が…。グループ活動に悩みを抱えている人はもちろん、順調に活動している人も、ぜひこのゲームに参加してみてください。グループ活動がもっとおもしろくなるに違いありません！

●対 象：テーマに関心のある人 25人

●講 師：岩木 啓子（ライフデザイン研究所 FLAP）

## 起業・就労セミナー

8月1日（木）から受付

9月18日～10月9日（水曜日） 14:00～16:00 全4回

## 再就職 働きたい☆私のためのセミナー

ずっと迷っていたあなたも、新しい自分をめざしませんか。グループワークで就職活動のコツとポイントを学びます。「履歴書の達人」李たかこさんと「時間術の達人」槇本千里さんが「最新版 再就職☆レシピ」を伝授します。

●対 象：再就職をめざす女性 30人（全回参加できる人優先）

日	テーマ	講師
9月18日	「不安を解消☆私の思いはどんな形」 ～楽しく自己分析～	槇本 千里
9月25日	「最新版☆就活レシピ1」 必聴！～応募書類・面接の受け方のヒント～	李 たかこ
10月2日	「最新版☆就活レシピ2」 再就職のスキル～ビジネスメールのルール、他～	槇本 千里
10月9日	「働く私をイメージ☆私らしい働き方とは？」 ～キャリアプランをたてる～	槇本 千里

## サポート・グループカウンセリング

8月1日（木）から受付

9月27日～10月25日（金曜日） 10:00～12:00 全5回

## 思春期の 子どもとの関係 ～ちょうどいい子どもとの距離を考える～

反抗期、恋愛、友人関係など、気になることがたくさんある思春期の子どもとの付き合い方を考えてみませんか。子どもに対する考え方だけでなく、親自身の生き方も問い直すチャンスです。

●対 象：テーマに悩む または関心のある女性 12人（原則として全回参加できる人優先）

●ファシリテーター：宮本 由起代（NPO法人 心のサポート・ステーション代表理事/カウンセラー）

## 女性セミナー

9月2日（月）から受付

10月18日～11月1日（金曜日） 13:30～15:30 全3回

## &lt;とらわれない生き方&gt;を探して ～お葬式とお墓から考える～

女性史をひも解きながら、「お葬式」と「お墓」に向き合い、「今とこれからをどう生きるのか」「最後まで私らしく生きること」を一緒に考えてみませんか。

●対 象：テーマに関心のある女性 30人（全回出席できる人優先）

●講 師：源 淳子（女性学研究者 関西大学人権問題研究室委嘱研究員）

日	テーマ
10月18日	「今も変わらない？お葬式の不思議」 ～お葬式は誰のもの？～
10月25日	「どうする？女とお墓の関係」 ～変わりゆくお墓、墓ない人生？～
11月1日	「これからの生き方、つきあい方」 ～社会は変わった！選択肢のある女の人生～

情報・図書コーナーでは、女性問題の解決や男女共同参画社会をめざすさまざまな活動をサポートする情報を収集し、発信します。図書貸出は、【お一人3冊・2週間】です。



●安井かずみが  
いた時代

島崎今日子  
集英社 (2013/2)

安井かずみ、作詞家。55歳の若さで逝ってから19年。何らかの形で彼女と関わった有名人・著名人たちへのインタビュー集です。

華やかでスタイリッシュ、数々の伝説に彩られた人生。それは戦後からバブル崩壊までの日本を体現するかのようです。昭和という時代、音楽、夫婦関係など色々なことを考えさせてくれます。



●名作うしろ読み  
齋藤美奈子

中央公論新社 (2013/1)  
古今東西の名作132冊

を、書き出しではなく、ラストの1文から読み解きます。筆者らしく斬新な視点で、作品の内容を現代に置き換えてみたり、テレビ

ドラマならと想像してみたり、主人公に駄目だしをしてみたりと、近寄りたいたい古典も身近に感じられます。132冊を読んだ気になりそうですが、やはり自分で読破してみたくになります。



●オトナ婚です、  
わたしたち

大塚玲子  
太郎次郎社エディタス  
(2013/2)

「半同居婚」「別居婚」「おめでた事実婚」「浮気容認婚」など、さまざまな結婚のカタチが登場します。自

分にあった結婚スタイルを探し、選び、そこにたどりついた女性たちが、その日々と本音を語ります。「結婚って、夫婦ってなに？」とモヤモヤしている人は少し気持ちが悪くなるかもしれません。



●女子会 2.0  
「ジレンマ+」編集部

NHK出版 (2013/5)  
これは、NHK「ニッポンのジレンマ」というテレビ

番組から派生した座談会を書籍化したものです。女子会に加え、様々な論考もプラスされ、「結婚で幸せになれるか」「女子力アップの果てに」「真の自由になるために」などと「女子」の過去・現在、未来がわかります。個性的な座談会のメンバー（専門家たち）のこだわりもおもしろい。



●境界を生きる  
性と生のはざま

毎日新聞「境界を生きる」  
取材班

毎日新聞社 (2013/2)  
赤ちゃんが生まれ、幸せに包まれるはずの瞬間に、医師から「男の子と女の子、どちらにしますか」と思い

もかけぬ選択を迫られる親たちがいると知ったことから連載が始まった、当事者や家族への取材の記録です。「無関心という『罪』をこれ以上深めてはいけない」一記者のこぼれ話です。



●貧困のなかで  
おとなになる

中塚久美子  
かもがわ出版

(2012/10)  
6人に1人が貧困家庭で育つ、1週間に1人が虐待で命を奪われる、5日に1つの学校がなくなる人数の

高校中退者がいる…この数字は、今の日本の子どもの現状です。この本では、今まで表に出ることの少なかった子どもの貧困の実情が伝えられています。まずは、現実に向き合ってみませんか。

# エル パープルリボンカフェ

パープルリボンは、女性に対する暴力をなくす運動のシンボルです



6月27日（木）に開催。お茶を飲み、おしゃべりしながら、楽しくリボンを作りました。  
手芸の得意な人も、苦手な人も、それぞれにできることで参加しました。  
興味のある人はお問合せください。

## 女性のための相談室

予約電話番号：0797-86-4006

電話相談	毎週 月・火・木・金曜日 10:00~12:00/13:00~16:00 直通電話：0797-86-3488
面接相談	第2・4水曜日 第1・3・5土曜日 10:00~12:50 ※要予約・相談時間は 1人 50分
法律相談	第1土曜日（原則） 14:00~17:00 < 市民対象 > ※要予約・相談時間は 1人 45分
起業相談	第1・3水曜日 10:00~12:00 < 市民優先 > ※要予約・相談時間は 1人 60分
キャリアアップ 相談	第4火曜日 11:00~11:50/13:00~14:50 ※要予約・相談時間は 1人 50分

※電話相談以外はすべて保育あり（要予約） 年末年始及び祝日の全業務はありません。

## エル・マガのご案内

男女共同参画センターの講座・イベントをお知らせするメールマガジンです。  
登録は無料、毎月2回お届けします。以下のどちらの方法でも登録いただけます。

### 1. 携帯電話から



左のQRコードから読み取ったアドレスに空メールを送ってください。

### 2. パソコンから

センターのホームページ  
「情報コーナー」→「メールマガジン」  
→「配信登録」

### 宝塚市立男女共同参画センター・エル

宝塚市指定管理者

NPO法人 女性と子どものエンパワメント関西

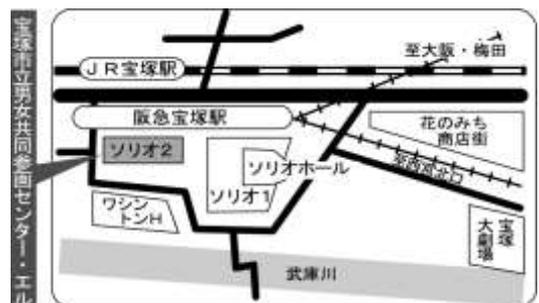
開館時間：月曜日～土曜日（9:00～21:00）

日曜日・祝日（9:00～17:00）

休館日：毎月第2日曜日・年末年始

〒665-0845 宝塚市栄町2-1-2「ソリオ2」4階

TEL：0797-86-4006 FAX：0797-83-2424



メール：elsentempo-empower@takarazuka-ell.jp

ホームページ：http://www.takarazuka-ell.jp/

発行：2013年7月